

政務活動報告書

会派名 (会派新生)

活動事項	行政視察
活動年月日	令和7年1月22日(水)～令和7年1月24日(金)
場所	糸満市、那覇市
活動の相手	同上
参加議員名	会派新生 所属議員11名 上杉栄一、砂田典男、西村紳一郎、加藤茂樹、魚崎勇、西尾彰仁、吉野恭介、中山明保、岡田信俊、寺坂寛夫、星見健蔵
目的・内容 ・結果等	<視察項目> ○糸満市観光文化交流拠点施設について ○首里城復興基本計画について <所見等>・・・別紙
関連する 支出伝票番号	24、25、26、27、28、29、30

(様式2)

別紙

視 察 報 告 書

令和7年1月27日

鳥取市議会議長 星見健蔵様

鳥取市議会 会派新生

上杉栄一



令和7年1月22日から1月24日まで「会派新生」の視察（調査）に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

糸満市

糸満市観光文化交流拠点

「シャボン玉石けんくる糸満」

施設概要

糸満市は、海をはじめ、グスクや戦跡など、沖縄をイメージさせる風景の集約された地域であり、長い歴史、豊かな文化を物語る名所旧跡、伝統行事や芸能など、有形無形の文化資産がある。

観光振興センターは、こうした魅力を情報発信し、様々な体験や交流を図る場として、観光客の誘客や地域文化の発展を目的とする施設として令和4年4月開館した。

事業費

令和元年6月～令和4年4月(約3年間)

総事業費 44億9,794万円

一括交付金 33億9,331万円

地方債 10億8,060万円

一般財源 2,583万円

ネーミングライツ

パートナー シャボン玉石けん株式会社

契約期間 令和4年4月1日～令和7年3月31日(3年間)

ネーミングライツ料 360万円/年 (3年合計1080万円)

愛称 「シャボン玉石けんくくる糸満」

指定管理者

くくる糸満共同事業体(沖縄コングレ・コングレ・沖縄日本管財の3社JV)

指定期間 令和4年1月4日～令和7年3月31日

指定管理料 2億7,850万円(3年3か月)

管内施設

大ホール 720㎡ 移動式観客席582席

多目的室 166.1㎡ 収容人数約90人

活動室 76.59㎡ 収容人数約32人

調理室 99.16㎡ 収容人数約35人

会議室1 63.70㎡ 収容人数約18人

会議室2 64.03㎡ 収容人数約18人

会議室3 80.16㎡ 収容人数約25人

利用実績(令和5年度)

大ホール 稼働率32.3% 35,561人

多目的室 稼働率24.5% 15,592人

企画展示室 5,052人

常設展示室 41,984人

その他展示室等 63,503人

合計 161,692人

数値目標と実績等

年間利用者数

目標値 87,000人

実績 令和4年度 158,244人 令和5年度 161,692人

令和6年度 156,534人(12月時点)

MICE開催実績 令和4年度 1回 令和5年度 2回 令和6年度 2回

修学旅行生受け入れ実績

令和4年度 1,540人(8回) 令和5年度 980人(4回)

令和6年度 1,065人(4回)

くくる糸満の課題と今後の展望

★大ホール利用率が県内同規模施設と比較して低い、土日の利用率は比較的好調であるが、平日の利用率が低いため、全体の利用率低調の原因となっている。

⇒事業所向けの会議や MICE、修学旅行の団体利用の誘致を推進し利用率向上へつなげていく

★観光文化交流拠点施設として、市内周遊観光の出発点として位置づけられているが、当施設が市内観光へもたらした効果を検証するに至っていない。

⇒常設展示室来場者向けへアンケート調査を行い、どの観光名所へ訪れたいかなどの集計を取りつつ、動態調査などを利用した検証を行うことを検討している。

★糸満市の文化芸術に寄与するため、多くのホールイベント等を行っているが、文化芸術イベントについては集客に苦戦している。

⇒これまで糸満市には市民ホールを備えた施設がなかったため、文化芸術に触れる機会が他市町村に比べて少なかったことが影響していると考えられる。気軽に参加できるアートイベントなどを開催し、ライト層へのアプローチを積極的に展開することで、これまで文化芸術に関心のなかった方々が文化芸術に触れる機会を創出していく。

所 見

沖縄への視察は 2016 年(平成 28 年)以来 9 年ぶりとなる。前回の視察でも糸満市を訪問している。前回は「道の駅いとまん」を視察した。沖縄に史上 2 度目の降雪のあった日で大変寒い中で現地視察した記憶がある。

今回は観光文化交流拠点施設「くくる糸満」を視察した。会議室で座学の後館内を案内していただいた。事業費の内訳で、国の一括交付金(メニューは不明)が総事業費の 75%を占める。また地方債約 10 億 8,000 万円も市への補助率は不明だがかなりの優遇措置と感じた。

施設は、「創造発信エリア」「交流情報エリア」「継承体験エリア」「地域発信エリア」「屋外活動エリア」に分かれており、創造発信エリアの大ホール(585 席)は、客席を収納し平土間として利用でき、大規模な会議やイベントが開催できる。構造となっている。今後、本市で取り組まれる文化施設の再整備におけるホール機能の整備方法の参考になった。

糸満市役所の案内窓口の女性スタッフに声をかけられ、鳥取市から視察に来たことを告げると、彼女の御主人は琴浦町の出身で数年前に亡くなられたとのことでとても懐かしそうにお話をされた。

余談だが、当日の夜の食事会(那覇市)の後で会派のメンバーと行った飲食店で同席した長野県から来た若者グループ(高原野菜の生産会社)と意気投合し、来年度の会派視察を約束した。

那覇市

首里城復興基本計画について

策定の趣旨

「首里城復興基本計画」は、基本方針で示した施策について、具体的に取り組む際の方向性等を体系的に定め、首里城復興を計画的に策定することを目的としている。

計画の位置づけ

本復興基本計画は、令和4年度を始期とする新たな沖縄振興計画の実施計画において、首里城復元はもとより、首里城に象徴される歴史・文化の観点から沖縄振興を目指す施策のマスタープランとなるもの。

首里城復興が目指す将来像

首里城に象徴され、古より体験・継承している歴史・文化を基層として、ふるさとへの誇りや愛着を感じられる社会が形成されるとともに、その時代に生きる沖縄県民が、それぞれの挑戦を通して多様で重層的な沖縄振興が果たされている。これらが積み重なって沖縄の新たな歴史・文化が創造され、これらが基層に加わることで、さらに発展していく社会を目指す。

基本施策 1

正殿等の早期復元と復元過程の公開

国等連携した伝統技術等の活用による正殿の早期復元とともに、歴史・文化・観光拠点としての復興の取組や、復興への継続的な関心につなげていく。

施策の方向性

- ① 伝統技術を活用した施設整備
- ② 木材、瓦等の調達に向けた取り組み

③ 復元過程の公開による観光資源党としての活用

基本施策 2

火災の原因究明及び防火設備・施設管理体制の強化

首里城正殿等を含む首里城公園内施設について、二度と火災による消失を生じさせない。

施策の方向性

- ① 再発防止に向けた防火設備等の強化
- ② 安全性の高い施設管理体制の構築

基本施策 3

首里城公園のさらなる魅力向上

県民を含む多くの観光客等が歴史や文化を感じ・体感できる場となるよう首里城公園全体の魅力向上を図る。

施策の方向性

- ① 国営・県営区域の一体的利用
- ② 多様で柔軟な施設の利活用

基本施策 4

文化財等の保全、復元、収集

学術的な研究成果等をわかりやすく工夫して情報発信をし、その歴史的価値を周知する。消失又は被災した貴重な文化財等の復元・修復を支援するとともに、国内外に所在する文化財等の調査・収集を行い、次世代へ継承できる環境を整備する。

施策の方向性

- ① 首里城の適正な保全と価値の周知
- ② 文化財等の復元・修復及び収集

基本施策 5

伝統技術の活用と継承

建築や美術工芸に関する伝統技術を復元するのみならず、修復にも活用していく

ことで、技術の継承及び人材を育成する

施策の方向性

- ① 伝統的な建築技術の活用と継承
- ② 美術工芸における伝統技術の継承

基本施策 6

「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進

首里杜地区において、古都首里のたたずまいを形成し、歴史や琉球文化を体現できる都市空間の創出を図る。

施策の方向性

- ① 歴史を体現できる風格ある都市空間の創出
- ② 首里城公園及び周辺地域の段階的整備
- ③ 交通環境の整備

基本施策 7

歴史の継承と資産としての活用

首里城及びその周辺地域を観光資源として活用していくなど、首里城に象徴される歴史・文化の継承に向けた取り組みを推進していく。

施策の方向性

- ① 多様で魅力ある観光資源の活用
- ② 平和を希求する「沖縄のこころ」の発信
- ③ 次世代を担う子ども達への継承

基本施策 8

琉球文化のルネサンス

首里城の焼失によって改めてその価値が再認識された沖縄独自の文化について、自信と誇りを持ち、その価値を将来に向けて高め、世界に発信していく。

施策の方向性

- ① 多様性・独自性を持つ琉球文化の再認識
- ② 琉球文化の復興と新たな文化の創出
- ③ 国内外に向けた琉球文化の発信

④ 琉球文化を活用した産業振興

復興基本計画の着実な推進

着実な推進に向けた取り組み

① 関係機関との推進体制の構築

国、那覇市等関係機関との連携等

② 国内外学術ネットワークとの連携

③ 県民等の継続的な参加による復興

④ 効率的で効果的な復興の推進

復興基本計画の期間

令和元年 10 月 31 日 首里城焼失

令和 2 年 首里城復興基本計画スタート

令和 3 年 再建に係る県事業スタート

令和 4 年 新たな沖縄振興計画スタート(仮)

令和 8 年 首里城正殿の復元 北殿・南殿等の工事着手

令和 13 年 新たな沖縄振興計画最終年(仮)

所 見

首里城復興の取組では、焼失した首里城は国管理であることから、復興予算は国費が充てられている。首里城公園の管理区分は、国・沖縄県・那覇市とエリアが分かれており、復興計画は三者が連携して取り組まれている。現地での説明は沖縄県土木建築部 首里城復興課 復元整備班長兼久氏他 2 名の職員が対応していただき、事前に首里城公園の中にある首里杜館で事前説明を受けた。

火災後全国から沖縄県に寄せられた寄付金は約 59 億円、令和 4 年 3 月までに寄せられた寄付金約 55 億円は首里城復興基金に充て、これらの寄付金は、焼失した城郭内施設の復元に活用。令和 4 年 4 月～令和 6 年 3 月末に寄せられた寄付金約 3 億 6 千万円は首里城未来基金とし首里城歴史文化継承の金として活用していく。

首里城正殿の復元工事は、「素屋根見学エリア」で復元作業が間近で見られ、当日も多くの見学者が訪れていた。

施工業者はスーパーゼネコン清水建設。本市の国指定重要文化財仁風閣も清水建

設が事業者として決定している。

沖縄県の担当者によれば、このような歴史的文化施設整備の専門業者は限定されているとのこと。仁風閣も5年の工期での事業となるが、卓越した技術力での復元に期待したい。

(様式5)

視 察 報 告 書

令和 7年 2月 5日

鳥取市議会議長 星見 健蔵 様

鳥取市議会 会派新生
砂田 典男



令和7年1月22日～24日 鳥取市議会会派新生の視察(調査)に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

所見等

視察先	糸満市 : シャボン玉石けん くくる糸満
調査項目	糸満市観光文化交流拠点施設について
説明者	糸満市観光・スポーツ振興課 係長 山城 正彦
・施設の視察	
	糸満市は、海をはじめ、グスクや戦跡など、沖縄をイメージさせる風景の集約された地域です。また、市内各地には、長い歴史、豊かな文化を物語る名所旧跡、伝統行事や芸能など、有形無形の文化資源があります。
	観光振興センターは、こうした魅力を情報として発信し、さまざまな体験や交流を図る場として、観光客の誘致や地域文化の発展を目的とする施設です。
	施設は、令和元年6月28日～令和4年4月15日(約3年間)で完成しました。総事業費は44億9,974万円 そのうち一括交付金は33億9,331万円、地方債は10億8,060万円、一般財源として2,583万円でした。
	建設地は、糸満市役所の隣の土地を埋め立て当初から候補地としていた経緯が合ったみたいです。
	施設の規模としては、建設面積5,077.78㎡(延)、延床面積5,991.44㎡敷地面積8,001.43㎡ 各種館内施設では、大ホール720㎡移動式観客席582席多目的室166,12坪㎡収容人数約90人、活動室1 76,59㎡活動室2(調理室)

64,03 m²収容人数約 35 人、会議室 1 63,70 m²収容人数 18 人、会議室 2 64,03 m²収容人数 18 人、会議室 3 80,16 m²収容人数 25 人、会議室 1,2,は接続して一つの会議室として利用可能です。

年間の利用者目標と実績は、

年間の利用者数、目標値は 87,000 人に対して、令和 4 年度は 158,244 人、令和 5 年度は 161,692 人、令和 6 年度は 12 月現在で 156,534 人の実績で目標値を大きく上回っています。

糸満市のくくる糸満では、小中高生の利用に際して、減免処置は行っていないとの報告でした。その点では鳥取市では例えば梨花ホール等では小中高生などの学校コーラス大会とか全校挙げて、吹奏楽部の演奏会などには減免処置が行われ各校とも大いに利用されている実態があり、大変好ましい傾向だと思います。

くくる糸満は沖縄の中心地、那覇市から 30 分位の場所に立地している為か大ホールの利用率が県内の同規模施設と比較して低く、土日の利用率は比較的好調であるが、平日の利用率が低いため、全体の利用率低下の原因となっています。

打開策として、事業所向けの会議やイベント、修学旅行の団体利用の誘致を推進して利用率向上に繋げていきたいと考えているようです。

また、観光文化交流拠点施設として、市内周遊観光の出発点として位置図けられているが、該当施設が市内観光へもたらした効果を検証するに至っていない。

糸満市の文化芸術振興に寄与するため、多くのホールイベントを行っているが、文化芸術イベントについては集客に苦戦している現状があります。

これまで糸満市には市民ホールを備えた施設が無かったために、文化芸術に触れる機会が他の市町村に比べて少なかったことが影響していると考えられる。

本市でも J R 鳥取駅周辺に文化芸術施設の建設を目指して議論が行われています。施設規模としては、糸満市の施設規模とほぼ同じような施設になるのではと、思っています。周辺の関係施設の統廃合を含めて真剣に議論を進めて頂き早急に建設着工するよう進めて頂きたいと思えます。

視察先 那覇市 : 首里城復興基本計画について

説明者：沖縄県 土木建築部 首里城復興課 復興推進班 班長 知念 武紀

首里城復興課 復元整備班 班長 兼久 迅

首里城復興課 復興推進班 技師 橋 大輔

- ・正殿等の早期復元と復興過程の概要、方策について

首里城正殿の概要

構造形式：木造（二層）3階建て

建築面積： 636.56 m² 延床面積： 1,199.24 m²

- ・正殿は、国王が政務を執り行う、場内の最も重要な儀式に使用された。
- ・大龍柱や龍頭棟飾、様々な彫刻などで飾られ、赤瓦や朱塗りの内外壁等の特徴を有する。
- ・二階御差床には、中国皇帝の御書を額に仕立てた扁額が飾られていた。
- ・正殿のほか、御庭、北殿、南殿などの諸施設で構成される。

令和元年10月31日未明に発生した火災により、9棟の建物が被災しました。
(全焼：7棟、一部消失：2棟)。

正殿復元に向けた素屋根・木材倉庫整備は国の所管事業として行われ、北殿北側見学通路は2021年10月完成、原寸場建学エリア、原寸場・木材倉庫は2022年9月完成、素屋根見学エリアは2023年8月に完成し、復元作業の現場を公開しています。

国における首里城復元に向けた取組

- 令和元年10月31日の火災以降、首里城正殿等の復元に向けて、破損瓦等の撤去や焼失した建物の解体等を進めるとともに、首里城正殿遺構等の一般公開を実施。
- 一般公開をはじめとする「段階的公開」、正殿を皮切りとした「首里城復元」それらの実施を通じた「地域振興・観光振興への貢献」に取り組んでいる。

首里城復元に向けた「3本柱」

・段階的公開

首里城復元委向けに進む破損瓦等の撤去や躯体の解体、復元工事の様子を安全性を確保しながら一般公開を進める。

・首里城復元

令和8年の首里城正殿の完成に向けて、関係機関と密に連携を図りながら首里城復元に向けた技術検討委員会での検討を進める。

・地域振興・観光振興への貢献

首里城の段階的公開、首里城復元に向けたボランティア活動や公園イベントの開催に努めていく。

沖縄県首里城復興課における首里城復興の取組み

首里城復興基本計画 概要版 令和3年3月29日

策定の趣旨

「首里城復興計画」は、基本方針で示した主な施策について、具体的に取り組む際の方向性等を体系的に定め、首里城復興を計画的に推進する目的としている。

また、県民はじめ多くの人々、企業、団体等及び行政・大学・関係機関等が、復興基本計画を共有することで、20年50年先などの未来を見据え、連携・協働して、首里城に象徴される沖縄の歴史・文化の価値を確実に次世代へ継承し、それぞれの時代にふさわしい新たな文化創出など沖縄発展の礎として首里城復興に一体的かつ持続的に取り組んでいく。

沖縄県に寄せられた寄附金（首里城復興基金・首里城未来基金）

沖縄県に寄せられた寄付金額（令和6年3月末）5,907,482,338円です。

焼失した首里城復元への活用を目的とした「首里城火災復旧・復興支援寄附金」は、令和4年度の正殿工事復元着工を節目とし、令和4年3月末で受付けを終了しました。

火災の原因究明及び防火施設・施設管理体制の強化として

首里城周辺一帯の公園大きく分けて国・国営有料部分は国・沖縄県都市公園課
国・国営無料部分は国、県営公園部分は大きく分けて5カ所あり沖縄県都市公園
課、沖縄県文化財課、那覇市文化財課がそれぞれ管理しています。

今まで、個々に管理していた監視システムを・中央監視システムと監視モニター
を連携し。大型のモニター画面に多様な情報を表示する。

・別系列である監視モニターと中央監視システムを並置することで、監視しやす
くする。 このシステムは令和8年までに完了します。

首里城公園の更なる魅力向上として

「新・首里杜構想」による歴史づくりの推進としての関連整備事業

・中城御殿跡、松崎馬場、円覚寺跡等を計画的に整備し、国営・県営区域が
一体となった首里城公園全体の魅力向上を図る。

また、首里杜館（地下一階）ガイダンスホールの改修を図ります。

実物資料の展示・収蔵の考え方

展示する実物資料は、当初計画で位置づけられた他館からの借用資料だけで
なく、城郭内で展示・収蔵していた美術工芸品、中城御殿に関連する出土遺物を
中心とする。

首里城未来基金を活用した人財育成の取組み

内閣府沖縄総合事務局、沖縄県、（一財）沖縄美ら島財団、県立沖縄芸術大学
は、正殿や北殿・南殿の焼失建物の復元、さらに復元後の保存修復等に必要と
なる伝統技術を継承すべく、復元、保存修復等の技術を有する人材の育成を
進めるため、連携協定を締結した。

今後の県の取組み

・首里城未来基金を活用し、令和5年度から人財育成に係る研修事業を実施する

・国の復元工事、及び県の首里城復興基金を活用した制作物監修とも現場実習等で連携を図る。

・その他、各機関連携して人材育成に取り組む。

学術ネットワークとの連携 / 県民等の継続的な参加 / 情報発信

県民参加型の取組として参加者の募集、首里城火災破損瓦を活用した、ものづくり体験、首里城ナンバープレート（令和5年10月から配布）このプレートは、自動車ナンバープレートデザイン賞 最優秀賞に輝きました。

県内大学等との連携で県、琉球大学、県立芸術大学の三者共催による、首里城復興と沖縄の歴史文化復興に関するシンポジウムを開催。

首里城復興イベント概要

首里城への来訪を推進し、その着実な復興の状況を共有する事を目的に、首里城の復元及び象徴される琉球の歴史・文化を「観て」「学んで」「楽しむ」機会を創出し、その魅力の再認識に繋がるイベントを開催しています。

今回の視察を通して、首里城の焼失前に会派で視察した思い出が有り、当時の首里城正殿や北殿・南殿・番所・近習詰所・黄金御殿・寄満・二階御殿・奥書院書院・鎖之間など、多くの建物が焼失した現状を目の当たりに見ました。

また、日々復興に向けて多くの人々が元の姿以上に再建して行こうとする姿には頭の下がる思いがしました。

私自身、令和元年11月上旬にプライベートで首里城正殿への旅行を計画していたのですが10月31日未明に発生した火災の為に計画自体が中止になった事もあり、この度の首里城正殿視察は感慨深い思いがありました。

一日も早い復元と復興をお祈りしています。

視 察 報 告 書

令和7年2月6日

鳥取市議会議長 星 見 健 蔵 様

鳥取市議会 会派新生
西 村 紳 一 郎



令和7年1月22日から令和7年1月24日まで鳥取市議会会派新生の視察（調査）に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

所見等：私はこの度の視察で2つの視点を掲げて沖縄を訪れた。まず、第一は先の大戦により多くの犠牲者を出して、今日までの戦争の歴史の継承の現状の確認すること。特に苛烈を極めた沖縄決戦の歴史の継承を確認すること。第二は戦後も米軍駐留による多くの基地負担を強いられている現状を確認することです。

令和7年1月23日（木）午前9時20分より

沖縄県糸満市役所を訪問、隣接するシャボン玉石けん「くくる」糸満へ移動した。市議会事務局長に歓迎の挨拶をいただいた。

糸満市は人口約6万2千人で沿岸部（都市部）と内陸部（農村）で構成されており、沿岸部は埋め立てられ住宅地となり、人口は若い人の流入で増加傾向であります。

シャボン玉石けん「くくる」糸満は糸満市の歴史・文化・名所旧跡・伝統行事・芸能などの文化資源の魅力を発信し、観光客の誘客や地域文化の発展を目指す施設です。

ネーミングライツはシャボン玉石けん株式会社が年360万円で5年間契約を締結した。5年間1,800万円。事業着手は令和元年6月で令和4年4月の完成。工期は約3年。事業費は約45億円、一括交付金約34億円、事業債10.8億円、一般財源は2,500万円、一括交付金が75.5%を占めている。施設の説明を受けながら視察。

くくる糸満の課題と今後の展望について、大ホールの稼働率については平日利用が低調のため、全体の利用率が低い。今後は大きめの会議、MICE（ミーティング、インセンティブ、コンベンション、イベント）、修学旅行の団体利用の誘致の推進を挙げられていた。注目は若手（大学生が主体）の「お笑いグループ」のリレー利用でした。ファンの拡大が図れば面白いなと感じました。大ホールは座席が全自動の可動式のシステムで、収納されれば、フラットな床のみで700席の椅子のみ設置が可能とのことでした。座席582席でのイベント開催の対応について、

（私の質問）イベントで来館が多数に上るときの対応について尋ねた。回答は来館者が

多いときは二部構成、三部構成で対応するしかないとのことでした。座席数の決定は行政判断とのことでした。

くくる糸満は観光文化施設との位置づけですが、市内観光にもたらせた効果の検証がされていない。今後、検証予定とのこと、結果と対策に注目したい。また、施設は文化芸術の振興に寄与するために、多くのホールイベントを行なっているが、文化芸術イベントの集客に苦戦している。ポイントは文化芸術に触れる機会の創出を図ることであるが、長く忍耐強い取組が求められると感じた。交流ロビーは若い人の利用増加が期待できそうである。Wi-Fi環境の充実は必須と伝えた。総括として素晴らしい施設であるが、まだこれからの施設と感じた。多くの利用で観光振興、文化芸術の振興の目標達成を期待したい。

私の視点) 糸満市は苛烈を極めた沖縄戦で、地理的に島の南部の位置づけにあることも関係し、当時の人口の44.9%の多くの人々が戦禍により亡くなったとの記録をくくる糸満の常設展示で確認した。思いを巡らすだけで悲惨な状況を想像できた。午前10時50分施設の前で記念撮影をして、市役所にて議場を見学し退庁した。

午後1時50分 「首里城復興への取組状況」沖縄県土木建築部首里城復興課より資料により詳細な説明を受けた。復興工事の現地を視察した。私は復興への取組の基本施策に注目した。土木工事のみだけでは復興は出来ないと感じている。基本施策は

- 1) 正殿等の早期復元と復元過程の公開(伝統技術、木材・瓦の調達、観光資源に活用)
- 2) 火災の原因究明及び防火設備・施設管理体制の強化
- 3) 首里城公園の更なる魅力の向上
- 4) 文化財等の保全、復元、収集
- 5) 伝統技術の活用と継承(伝統的な建築技術、美術工芸の継承)
- 6) 新・首里城構想による歴史まちづくりの推進
- 7) 歴史の継承と資産としての活用(多様な観光資源、「沖縄のこころ」発信、子どもたちへの継承)
- 8) 琉球文化のルネサンス(琉球文化の再認識・復興と新たな文化の創出・情報発信)

令和8年には首里城正殿が完成予定であるが、本来の復興には時間がかかると感じた。首里城正殿の復興工事の施工業者は(株)清水建設です。宮大工等の伝統建築の優れた技術者を擁した会社である。仁風閣の改修工事も(株)清水です。展望台へ上がれば、琉球王朝が繁栄した、正に、この場所の意味が理解できた。360度見渡せる。完成したら、国宝・伝統工芸品の再生等を見学に再訪したい。

私の視点) 首里城の見学中に轟音と共に、F-15ジェット戦闘機2機が上空を飛行した。爆音を聞いて、沖縄の基地問題の認識を新たにされた。タクシーでホテルへの帰路中にも轟音を聞いた。沖縄では日常のことである。当たり前のこととして慣れているのか? 基地負担について認識を再確認すべきである。

午後4時15分 首里城公園を後にした。

令和7年1月24日午前10時15分 那覇市歴史博物館を見学 会派全員入館。
「王朝文化と都市の歴史」のテーマにて開催。国宝・国の重要文化財が多数展示されていた。歴史は1879年に沖縄県が設置。県庁を那覇に置き、那覇が政治・経済の中心地となった。1921年に市制が施行され、沖縄県で初めて「那覇市」が誕生した。1944年の10・10空襲で米軍の空襲を受けて、那覇市域の90%が消失、更に翌年の日米両軍の地上戦で多くの人命と文化遺産が失われた。戦後の沖縄は米軍の統治下に置かれ、土地の強制収用により那覇市内にも那覇軍港などの米軍施設が建設された。那覇市は2度の合併を経て今日の那覇市域となっている。

27年間米軍統治を経て、1972年5月15日、沖縄の施政権が日本に返還され、新沖縄県が誕生しました（本土復帰）。しかし、基地問題など様々な問題を持ち込んだの復帰で、それは現在でも大きな問題として残されている。

私の視点) 今なお続く、基地問題などの多くの問題点について、那覇市歴史博物館を見学出来て、学べました。非日常の現実が当たり前になっていることに対し、沖縄の方々へ思いを巡らすことが大切と感じました。少しだけ歴史が学習出来た。長い歴史の中で琉球時代・沖縄の歴史の舞台となった那覇市。今なお、歴史や文化を色濃く伝える都市で、さらに県都として発展を続けて行かざらうと感じた。魅力ある那覇市であった。 午前11時15分 那覇市歴史博物館を退館した。

以 上

(様式2)

別紙

視 察 報 告 書

令和 7年 2月10日

鳥取市議会議長 様

鳥取市議会 会派新生
加藤 茂樹



令和7年1月22日から令和7年1月24日まで鳥取市議会 会派新生の視察
(調査)に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

☆令和7年1月23日(木曜日)

〒901-0364

沖縄県糸満市潮崎町1-1-2 (TEL098-992-2500)

シャボン玉石けんくくる糸満

*概要

- ・人口 62,249人
- ・世帯 28,764世帯
- ・面積 46.63K㎡

*調査事項

◇糸満市観光文化交流拠点施設について

《シャボン玉石けんくくる糸満》

- ・施設の詳細な概要については別紙添付。
- ・施設の名前についてはシャボン玉石けん(株)とネーミングライツ契約し
くくる糸満は公募で決定。

★色々話をお聞きしましたが、文化芸術の集客に苦戦しておられました。

地理的な問題、また、交通の問題も多々あると感じました。

今後、集客に向けての取り組みを祈り利用率向上に繋がることを願います。

☆令和7年1月23日（木曜日）

〒903-0815

沖縄県那覇市首里金城町1丁目2番地（TEL098-886-2020）

首里城公園

***概要**

・人口 1,467,671人

・世帯 652,407世帯

・面積 2,281K㎡

***調査事項**

◇首里城復興基本計画について

- ・首里城復興への詳細な取り組み状況については別紙添付。
- ・国営公園のことから、復元は国がしている。
- ・完全復元には、10年位かかるのではとのことでした。
- ・復元に向けての寄付金が59億円集まった。（正殿の復元は55億円予定）
- ・復元への取り組みの中で、オーバーツーリズム解消への取り組み、
そして、なんと見せる復興に取り組んでおられた。

★復元中にもかかわらず、すごい数の観光客に驚いた。見せる復興への取り組みの効果と感じた。

国・県・市・国民・県民・市民・町民・国内外の観光客、一体となつての首里城復興への取り組みを目のあたりにし驚きました。一日でも早い復興を祈っております。

本市においても、鳥取城関連の復元に取り組んでおり、真似るべき点が多々有ると感じました。

視 察 報 告 書

令和7年2月3日

鳥取市議会議長 星見 健蔵 様

鳥取市議会 会派新生

魚 崎 勇



令和7年1月22日から令和7年1月24日まで鳥取市議会 会派新生の視察（調査）に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

所見等：

令和7年1月23日（木）

沖縄県糸満市議会

糸満市の概要

- ・ 人 口：62,249人（令和6年10月31日現在）
- ・ 世帯数：28,764世帯
- ・ 予 算：約320億円（一般会計）

糸満市観光文化交流拠点施設

「シャボン玉石けんくくる糸満」について

コンセプト

いとまん ゲートウェイ・ステーション

～人・歴史・文化・喜びと伝統がつながるまちへ～

施設の基本的展開

- ・ 海をはじめ、戦跡など、沖縄をイメージさせる風景の集約された地域
- ・ 歴史、旧跡、伝統行事、芸能の情報発信し、さまざまな体験や交流を図る
- ・ 観光客の誘客や地域文化の発展を図る

施設概要

- ・ 所在地：沖縄県糸満市潮崎町1-1-2（糸満市役所横）
- ・ 建築面積：5,077.78㎡
- ・ 延床面積：5,991.44㎡
- ・ 敷地面積：8,000.43㎡

管内施設

- ・ 大ホール：720㎡、移動式観客席582席
- ・ 多目的室：166.12㎡、収容人数約90人
- ・ 活動室1：76.59㎡、収容人数約32人
- ・ 活動室2（調理室）：99.16㎡、収容人数約35人
- ・ 会議室1：63.74㎡、収容人数18人
- ・ 会議室2：64.03㎡、収容人数約18人
- ・ 会議室3：80.16㎡、収容人数約25人

事業費

- ・事業期間 : 令和元年6月28日～令和4年4月15日 (約3年間)
- ・総事業費 : 44億9,974万円
- ・一括交付金 : 33億9,331万円
- ・地方債 : 10億8,060万円
- ・一般財源 : 2,583万円

指定管理者について

- ・指定管理者 : くくる糸満共同事業体
- ・指定期間 : 令和4年1月4日～令和7年3月31日 (3年3か月)
- ・指定管理料 : 2億7,850万円 (3年3か月)

ネーミングライツについて

- ・パートナー : シャボン玉石けん株式会社
福岡県北九州市若松区南二島2丁目23番1号
- ・契約期間 : 令和4年4月1日～令和7年3月31日 (3年間)
- ・ネーミングライツ料 : 年360万円 (3年合計1,080万円)
- ・愛称 : 「シャボン玉石けんくくる糸満」

施設の目標と実績

	令和4年度	稼働率	利用者数	令和5年度稼働率	利用者数
・大ホール :	40.3%	42,157人	32.3%	35,561人	
・多目的室 :	22.2%	8,133人	24.5%	15,539人	
・活動室1 :	15.1%	2,851人	20.6%	5,018人	
・活動室2 :	4.5%	635人	6.9%	2,153人	
・会議室1 :	16.3%	2,171人	23.1%	4,345人	
・会議室2 :	8.2%	1,342人	15.5%	2,951人	
・会議室3 :	12.0%	2,879人	19.3%	5,013人	

課題と展望

- ・大ホールの利用率が県内同規模施設より低く、平日利用率の低さが全体を引っ張っている
⇒事業所向け会議、MICE(会議・研修・国際会議・イベント)、修学旅行団体の利用誘致を推進
- ・観光文化交流拠点としての検証を検討していない
⇒来場者向けアンケート、動態調査で検証を検討する
- ・文化芸術イベント開催に苦戦している
⇒文化芸術イベントに触れる機会が少なかったと考えられ、今後、アートイベント等で参加機会の創出する

所感

観光文化交流拠点施設として建設されているが、設置位置が糸満市役所となりであり、相乗効果が薄いと感じる。別の公共交通、自家用車の利便性がある位置でもよかったのではないかと思われる。

また、大ホールは移動式観客席582席とし、客席収容時には1フロアとなり、MICEに対応出来るとしているが、フロア面積が中規模でありイベントの開催種類に限界を感じた。

沖縄県議会

沖縄県の概要

- ・ 人口：1,467,671人（令和6年11月1日現在）
- ・ 世帯数：652,407世帯
- ・ 予算：約8,421億円（一般会計）

首里城復興基本計画について

目的

- ・ 首里城復興を通じて、沖縄県の地域振興・観光振興へ貢献する。

取り組み

1. 正殿等の早期復元と復興過程の概要、方策について
 - ・ 正殿概要：木造（二層）3階建て 建築面積636.56㎡
延床面積1,199.24㎡
 - ・ 復元「3本柱」：段階的一般公開・復元検討委員会・沖縄県の地域振興・観光振興
 - ・ 沖縄県の役割：早期復元と復元過程の公開
施設管理体制の強化
首里城公園の魅力向上
文化財の保全、復元、収集
伝統技術の活用と継承
「新・首里社構想」による歴史まちづくりの推進
歴史の継承と資産としての活用
琉球文化のルネサンス
復興基本計画の着実な推進
2. 復興後の首里城の役割、将来像について
 - ・ 首里城により、古より体験・継承している歴史・文化を基層として、ふるさとの誇りや愛着を感じられる社会の形成。
 - ・ 時代に生きる私たちが、それぞれの挑戦を通して多様で重層的な沖縄振興を果たす。
 - ・ 上記の積み重ねにより、沖縄の新たな歴史・文化が創造され、さらに発展していく社会の創造。
3. 首里城の復元・修復を支える人づくりの具体策について
 - ・ 首里城未来基金（首里城歴史文化継承基金）
 - ・ 人材育成研修事業
建造物木工実習・木彫刻実習・復元現場視察・先進地視察
4. 「新・首里社構想」による歴史まちづくりとは
 - ・ 歴史を体現できる風格ある都市空間の創出
 - ・ 首里城公園及び周辺地域の段階的整備
 - ・ 交通環境の整備

所感

他都市の復元事業の多くは、安全確保の為にシート、バリアーで囲った閉鎖空間で施行している。

しかし、首里城の復元事業は、観光客の安全を確保しながら、破損原材、復元資材を展示し、復元過程も閲覧させ、復元事業自体を観光資源として活用している。

平日午前にもかかわらず、かなりの観光客が入場しており、復元過程の公開の効果は大きいと感じる。

復元事業は、国がほとんど施行しており、復元材料、ボランティアを沖縄県、市が支援（手伝い）を行っている。

鳥取市としては鳥取城復元に首里城復元の手法を参考にできると思われるが、やはり、国の国防の要である、沖縄県の有利性があり、単純に参考にするには難しいと感じた。

(様式5)

視 察 報 告 書

令和7年2月3日

鳥取市議会議長 星見 健蔵 様

鳥取市議会 議員 会派新生
西 尾 彰 仁



令和7年1月22日(水)から令和7年1月24日(金)まで鳥取市議会会派新生の視察(調査)に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

所見等：主な視察内容と感想等

1. 糸満市観光文化交流拠点施設について(沖縄県糸満市)

沖縄県糸満市は、シャボン玉石けん(拠点：北九州市)は、沖縄県糸満市の観光文化交流拠点施設のナーミングライツ(命名権)を取得し、当施設の名称を「シャボン玉石けんくくる糸満」にされた同社としては初の命名権契約となっている。尚、ナーミングライツ料は、年360万円(3年契約で1,080万円)となっており、2022年から3年が経過し更に3年間の契約延長が予定されている。糸満市は、海、グスク、戦跡など沖縄のイメージ風景のある地また、市内各地に歴史、文化、名所旧跡、伝統行事などの有形無形文化財がある。この観光振興センターは、こうした魅力や情報発信、またさまざまな体験を図る場として、観光客の誘客や地域文化発展を目的として整備されました。

総事業費は、44億9,974万円その財源は、一括交付金(沖縄特別復興交付金)33億9,331万円、地方債10億8,060万円、一般財源2,583万円である。建築事業者は、建築、電気、機械、設計・監理、展示と部位別施工だが、監理と展示は、地元業者一社だが他は、JV(企業体)によって施工されている。施設の指定管理も3社JVで、3年3か月の指定管理料は2億7,850万円となっている。建築面積5077.78㎡、延床面積5991.44㎡敷地面積8001.43㎡とかなり大きな施設である。施設内容として大ホール582席(稼働率40.3%)、多目的室90人、活動室2室(内1室は調理室各32~35人)、会議室3室(18人~25人)となっており令和4年度の稼働率は、全体的には、高くないと感じた。土日祝祭日の利用率は、高いがウイークデイの利用が低いためである。その為、事業所向けの会議や修学旅行などの団体旅行受け入れに力を入れていくことまた、文化芸術イベント開催利用に苦慮しており、今後アートイベントの開催などを行ってライト層へのアプローチを展開していくことであった。

所見：やはり建設費用の約70%を占める一括交付金は、魅力的である。今後の石破内閣の地方創生交付金への期待が膨らむところである。施設は、ユニバーサルデザインであり、幼児から高齢者また、障がいのある方も気軽使える施設となっている。また要所に糸満市の文化を感じる展示があるのがとても良いと感じた。人口規模に対して少し大きな施設ではないかと感じたが、情報・創造・地域・継承発信エリアと小会議室が多いためと感じた、鳥取市も駅周辺に複合的な拠点施設を整備する際には、しっかりとした利活用計画(人口減少、高齢化等考慮)を考える必要があると感じた。また、利用料金についても少し高いような感じを受けた。

2. 首里城復興基本計画について（沖縄県）

首里城復興への取り組み状況について沖縄県土木建築部 首里城復興課より現地にて説明を受けた。（首里城は、国宝であるため国の責務において復興するのだが県が国の予算を使い行っている）首里城は、令和元年10月31日未明に発生した火災により、9棟の建物が被災（全勝7棟、一部消失2棟）その後、国の文化財であるが、県が主導となり復元に向けた取り組みを次の三本柱で進めている。①段階的公開②首里城復元③地域振興・観光振興への貢献である。焼失後も瓦礫等の撤去や建物の解体等を早急に進めるとともに首里城正殿遺構等の一般公開を実施するとともに「段階的公開」として正殿を皮切りとした「首里城復元」それらの実施を通じた「地域振興・観光振興への貢献」に取り組んでいる。令和5年8月26日には、正殿の復元作業が身近で見え素屋根見学エリアの公開を開始、その後も再建の工事譲許を見学するイベント等開催されている首里城復興計画は、長期間に及ぶが令和8年度には、首里城正殿が完成する予定である。また首里城再建のために沖縄県に寄せられた寄付金額は、約59億円（令和6年3月現在）と多額の寄付が全国から寄せられており、首里城は、沖縄県はもとより我が国の正しく宝であると感じた。また、再建には沖縄県にある流木を使い、その工法も古式な手法が使われている。そのほか、首里城の再火災の防止に向け新たな管理体制の構築も進めている。県民等への復興への参画促進として首里城プリント入りのご当地ナンバープレートもあり、市内で多く目にした。沖縄県那覇市などでは、オーバーツーリズムが発生しており、地区交通の検討かなされている。伝統技術の活用と伝承のため、「首里城未来基金」が創設されており、未来へ首里城をつなぐ取り組みもなされている。

所見：復元にはかなりこだわりを持って取り組まれていると感じた、また工事中にも関わらず入場料をはらって職人が作業をしている状況を観れるのは、良い取り組みであると感じた。しかし、これだけの規模の施設を再建するには、まだまだ長い年月と資金が必要であると感じた。火災よって一瞬で崩壊した文化財の損失は計り知れない。今後、しっかりとした災害はもとより、火災をおこさない、また初期消火等での被災の減少にしっかりと取り組む必要があると感じた。本市にも沢山の重要な建築物があるが、参考にしていく必要がある。

視察報告書

令和7年1月31日

鳥取市議会議長 星見 健蔵 様

鳥取市議会 会派新生
吉野 恭介

令和7年1月22～24日、会派の行政視察（調査）に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

1. 視察（調査）の概要

日程	視察先	場所	調査項目	担当者
1/22 (木)	シャボン玉石けん くくる糸満	糸満市	観光文化交流拠点施設	事務局・當銘氏 他3名
1/22 (木)	首里城	那覇市	首里城復興基本計画	事務局 知花氏 他3名

2. 全体感想

- ・鳥取より気温が10℃も差があり、途中から汗が噴き出る位。日本列島の南北の長さを感じた。
- ・まちなかには外国の方がとても多くインバウンドが戻って来ている状況を肌で感じた。国際通り、首里城などアジア系の人や修学旅行生が溢れており、観光都市沖縄の豊かな資源を感じた。
- ・タクシーの運転手さんと会話し、沖縄の歴史を振り返る時、戦時中の本土の人間・軍の対応は沖縄の人達を苦しめ辛い思いをさせた事を再認識できたのも大事な事だった。
- ・移動中、海岸線に大きなホテルが突然現れた。しかし、よく見るとそれはクルーズ船でした。境港に来航してくる船の何倍も大きい船でした。鳥取もまだまだだなど感じこれ位の船に来て貰らい、港と砂丘を繋げる様な観光をすべきと感じた。

3. 視察1『シャボン石けん くくる糸満』

(1) 感想

- ・582人収容の大フォールは文化フォールの規模だが、全席を壁内に収納でき、フルフラットな床面とする事も出来、多目的を意識した構造が素晴らしい。プロレス・格闘技・文化的行事など、またステージには反音板が用意されており、音楽コンサートなど出来る構造となっていた。
- ・館内施設は、大フォール、多目的室、活動室、調理室、会議室など7つの部屋があり、企画展示室や交流ロビー、屋外活動エリアなど18の施設構成となっている。沖縄・糸満市の歴史・文化を伝える展示室があり、その稼働率を上げるには相当な営業活動・広報活動が必要と感じた。

- ・形は変わっても自分達のルーツを学ぶ場を設け、次代に伝え残して行こう。そして今を考えよう、との意識を展示物から感じた。

(2) 質疑

Q：糸満市は人口6. 2万人（沖縄県11市の8番目の人口規模）。毎年少しずつ増加傾向。何故人口増加しているのか・・・未確認

Q：施設事業費：約4.5億円、一括交付金：約3.4億円、地方債：約1.1億円、一般財源：約0.25億円。交付金が総事業費の75%と過大なのは何故か。

A：沖縄特別振興交付金という特別な交付金制度

Q：平日の利用率向上の考えは

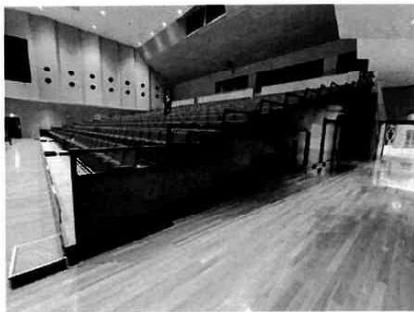
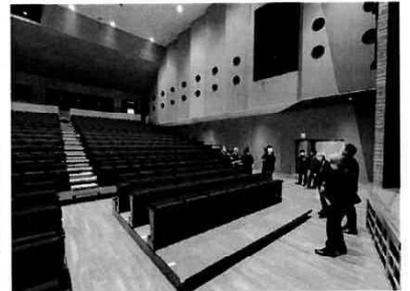
A：事業所向けの大会議やMICE、修学旅行の団体利用を誘致して行く。利用料の減免などで学生の利用率を向上させたい。

Q：観光交流拠点施設として、市内周遊観光への効果影響はどの程度か、

A：今後調査、検証する。

Q：文化芸術イベントについて集客対策は

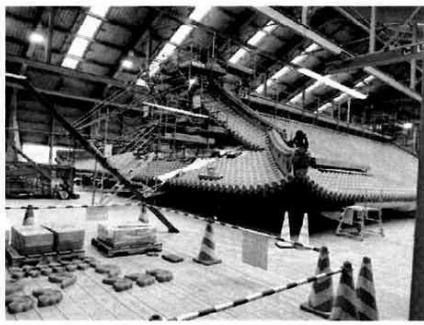
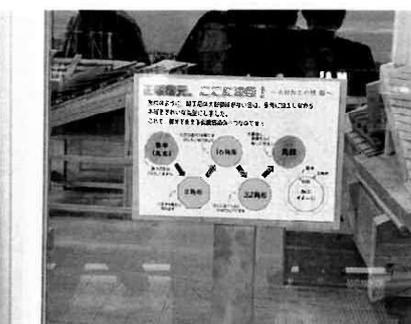
A：アートイベント&飲み会など複合的な行事とするなど、ライト層へのアプローチを積極的に働きかけていく



4. 視察2『首里城復興基本計画』

(1) 感想

- ・以前、視察で訪れた首里城が翌年に火災により主施設が全焼消失、TVニュースを見てとてもショックでした。その建物を復興している様子を見させて頂き多くの人の手で着実に再現されようとしている姿に感銘を受けた。
- ・過去にも焼失した事があった様だが、これまでは修復完成後に見学受入れをしていたとの事。こうして途中の修復工事の様子を見て貰う事で、一緒に復興に取り組んでいる意識を醸成し、完成後は誰もが愛着の持てる施設になる。その想いが引き継がれていく原点なのだと感じた。正殿は来年完成、全体完成は10年以上先と聞き、事の重大さを改めて感じ入りました。
- ・現地を見学し、改めて360°那覇市が全望できる見晴らしの良い場所に城は建っており、琉球文化やグスクの歴史を少しだけ感じる事ができました。
- ・観光地の整備で大切だと感じたインフラの1つはトイレ。清潔そうな洋式の水洗トイレがあるとホットしました。
- ・沖縄県の土木建築部首里城復興課の方が一般の歓迎施設のフロアで説明されたので、声が聞き取り辛かったのが残念でした。



視 察 報 告 書

令和 7 年 2 月 1 日

鳥取市議会議長 星見 健蔵 様

鳥取市議会 会派 新生
中山 明保

令和 7 年 1 月 22 日から令和 7 年 1 月 24 日まで鳥取市議会
会派 新生の視察（調査）に参加したので、その結果を、下記の
通り報告します。

記

（所見等）

（1） 視察先：沖縄県糸満市

項目：糸満市観光文化交流拠点施設について

所見・施設である「シャボン玉石けんくる糸満」は
観光客の誘客や地域文化の発展を目的とする
施設であった。青谷上寺地遺跡にも取り入れたら
と、思われる。

500 人収容のホールの座席が、可動式となってお
り運用面など参考になりました。

ネーミングライツについては、年 360 万円で
3 年間契約（3 年合計 1080 万円）です。

視察先：沖縄県 首里城

項目：沖縄県 首里城復興基本計画について

所見・来年（R8）秋の正殿完成に向けて鋭意工事され
ていた。工事の様子を観光客が見学できること
に感心し、仁風閣修復工事にも応用できないもの
か。と思われる。

以上 視察報告とします。

視 察 報 告 書

令和 7 年 1 月 28 日

鳥取市議会議長 星見 健蔵 様

鳥取市議会 会派新生

岡田信俊



令和 7 年 1 月 22 日から 1 月 24 日まで鳥取市議会 会派新生の視察（調査）に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

沖縄県糸満市（23 日）

○「糸満市観光文化交流拠点施設」について

ネーミングライツパートナーが「シャボン玉石けん(株)」であり、施設名は「シャボン玉石けん くるる糸満」。契約期間は R4 年 1 月 4 日～R7 年 3 月 31 日（3 年間）、ネーミングライツ料は年間で 360 万円（3 年間＝1080 万円）である。

糸満市は、海をはじめ、城や戦跡など、沖縄をイメージさせる風景の集約された地域である。また、市内各所には、長い歴史、豊かな文化を物語る名所旧跡、伝統行事や芸能など、有形・無形の文化資源がある。当施設は、こうした魅力を情報として発信し、様々な体験や交流を図る場として、観光客の誘客や地域文化の発展を目指しておられる。

事業費は R 元年 6 月 28 日～R4 年 4 月 15 日（約 3 年間）で、総事業費約 45 億円。（内、一括交付金約 34 億円、地方債約 11 億円、一般財源約 2600 万円。建設は JV で施工。指定管理者は「くるる糸満共同事業体」沖縄コングレ・コングレ・沖縄日本管財の 3 社 JV。指定管理料は 3 年 3 月で 2 億 7850 万円。R7 年度以降も引き続きお願いをする予定である。

各種管内施設については、

- 大ホール・・・720 m²、移動式観客席 582 席
- 多目的室・・・166.12 m²、収容人員約 90 人
- 活動室 1・・・765.59 m²、収容人員約 32 人
- 活動室 2（調理室）・・・99.16 m²、収容人員約 55 人
- 会議室 1・・・63.70 m²、収容人員約 18 人
- 会議室 2・・・64.03 m²、収容人員約 18 人
- 会議室 3・・・80.16 m²、収容人員約 25 人

である。

大ホール利用率が県内同規模施設と比較して低いようである。土日の利用率は比較的好調であるが、平日の利用率が低いため、全体の利用率低調の原因となっている。事業所向けの大き目の会議や、MICE、修学旅行の団体利用の誘致を推進して利用率向上に繋がりたいと考えておられるようだ。また、観光文化拠点施設として、市内周遊観光の出発点として位置づけられているが、当施設が市内観光へもたらした効果を検証するに至ってなく、常設展示室来場者に向けてアンケート調査を行い、どの観光名所へ訪れたいかなどの集計をとりつつ、動態調査などを活用した検証を行うことを検討しておられる。

糸満市は那覇市などと同様に、現在人口が増えている。羨ましい限りであるが、本施設に関して辛口な表現をすると、中途半端な施設に感じる。大きなホールなどは中心である那覇市のもので間に合っており、本施設はその次を目指しているのか、何か目指すものが見えない。

施設独自のガラス張りの部屋をアピールしたり、糸満市の観光資源をはじめ、戦争遺産や独自の資源などを、もっと前面に出した展示等をすれば更なる集客に繋がると感じた。

沖縄県那覇市（23日）

○「首里城復興基本計画」について

令和元年10月31日未明に、正殿内部から発生した火災により、正殿をはじめする9施設が焼失した。火災は約11時間にわたり燃え続けた後に、鎮火された。火災後には、警察及び消防による調査が行われたが、火災原因の特定には至らなかった。首里城公園では、沖縄総合事務局、沖縄県、沖縄美ら島財団で連携して、二度と同じような悲劇を繰り返さないよう防災対策を講じておられる。この火災により正殿を含む9つの施設に貴重な美術工芸品391点が焼失。

令和元年12月には内閣官房長官が議長を務める「首里城復元のための関係閣僚会議」にて「首里城復元に向けた基本的な方針」が決定し、翌年には「首里城正殿等の復元に向けた工程表」が決定され、令和4年より首里城正殿の復元工事がスタートしている。現在は令和8年度中の本殿復元完成に向け、着々と工事が進んでいる。首里城では「本殿が完成し公開」ではなく、「見せる復興」をテーマに復興の様子も公開しておられる。これまでと同じく有料エリアと無料エリアが設けられており、有料エリアでは順路を辿って復興の最前線を感じられるようになっている。

復興に期待して、寄付金も多く集まったようであり、工事費用はそれで十分

賄えるようである。私的には消失する6日前に訪れた経緯があり、残念な思いが多くあったが、復興の現場を見ることができて、新しい首里城の完成を望み、完成した首里城の勇壮を期待する。

視 察 報 告 書

令和7年1月27日

鳥取市議会議長 星見 健藏 様

鳥取市議会

会派新生 寺坂 寛夫



令和7年1月22日から令和7年1月24日まで会派新生の行政視察に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

調査事項

◇：沖縄県糸満市 : 令和7年1月23日(木)

◎ 糸満市観光文化交流拠点施設について

○整備の背景

糸満市の各地域には、長い歴史、豊かな文化を物語る名所旧跡、伝統行事や芸能など有形・無形の文化資源があります。

こうした魅力を情報として発信し、さまざまな体験や交流を図る場として、観光客の誘客や地域文化の発展を目的とする施設

○施設概要

●複合施設 敷地 A=8001.43 m² 建物延べ面積 A=5077.78 m² (大ホール 582席収納型、多目的室、活動室1室、活動調理室1室、会議室3室、常設展示場、企画展示室、交流ロビー、駐車場)

●令和4年4月1日開館

●総工費 45億円 (国庫38億円、一括交付金34億円、地方債11億円、一般財源2千6百万円)

○運営主体

●指定管理者 くくる糸満共同事業体 (沖縄コングレ・コングレ・沖縄日本管財の3社JV) 指定管理料・・・2億7850万円【3年3か月】

○ネーミングライツについて

シャボン玉石けん(株) 愛称「シャボン玉石けん くくる糸満」

ネーミングライツ料 年360万円 (3年合計1,080万円)

(くくる……→こころを意味する)

○年間利用者数

計画目標値: 87,000人 実績 令和4年度 158,244人 令和5年度 161,692人 令和6年度(12月時点) 156,534人

○課題と今後の展望

①平日の利用率が低く、事業所向けの大きめの会議やMICA、修学旅行の

団体利用の誘致を推進して利用率向上に繋げたい。

- ②気軽に参加できるアートイベントなどを開催し、ライト層へのアプローチを積極的に展開し、文化芸術に触れる機会を創出していきたい。

まとめ

今回の観光文化交流拠点施設「くくる糸満」の情報発信エリアや交流情報エリア、地域発信エリア、継承体験エリアなどの各配置状況やその取り組みについては、大いに参考となるものであった。

本市においては、文化芸術施設として、市民会館や福祉文化会館、文化ホールなどの老朽化施設が多くあり、今後の施設の在り方を現在検討しています。また、市独自の美術館や演劇演奏者が要望されている小ホールの設置などの問題が、山積しています。鳥取駅周辺の活性化についても活性化構想計画に取り組みされており、バスステーションを含めた市民ホールなどの新築要望なども上がっています。そのようなことから、積極的に取り組む必要があると考えます。市議会としても文化芸術施設の統合を含めての新設問題に関心を強めていくことが、重要であり大切である。

◇：沖縄県：令和7年1月23日（木）

◎ 首里城復興基本計画について

- ◎ 令和元年10月31日未明に発生した火災により、9棟の建物が被災（全焼7棟一部焼失2棟）
- ◎ 復興基本計画の着実な推進
 - 令和3年3月 首里城復興基本計画（令和13年まで）
- ◎ 正殿等の早期復元と復興過程の公開
 - 沖縄県に寄せられた寄付金額5,907,482,338円（令和6年3月末）寄付金は「首里城復興基金の活用に関する方針」に基づき、焼失した城郭内施設等の復元に活用
 - 令和4年4月以降は、新たに「首里城未来基金」を創設し、寄付を募集し、県事業と一体的に取り組んでいる。
 - 寄付金の活用は、正殿の木材、瓦、屋外彫刻、室内装飾等に活用する。
 - 正殿復元に用いる建造材（大径材）の調達 柱165本 梁524本（ヒノキ、ヒノキアスナロ、スギ、イヌマキ）
- ◎ 火災の原因究明及び防火設備・施設管理体制の強化
 - 公園の管理区分
 - ①国 ②国・沖縄県都市公園化 ③沖縄県都市公園化 ④沖縄県文化財課 ⑤那覇市文化財課
 - 首里城公園管理体制構築計画（令和4年4月策定）
 - 公園管理センターの増築・改修
 - 中央監視システムと監視モニターの連携
- ◎ 首里城公園のさらなる魅力向上
 - 「新・首里杜構想」による歴史まちづくりの推進
 - 中城御殿跡、松崎馬場、円覚寺跡や龍潭周辺等を計画的に整備し、国営・県営区域が一体となった首里城公園全体の魅力向上を図る。

- 首里杜館（地下一階）ガイドスホールの改修
 - ① 天吊りプロジェクター ② 3Dホログラム ③ インタクティブプロジェクト
クションマッピング ④ 王都首里街並復元模型
- 首里杜館（地下一階）展望ホールの改修・レビューホールの改修
- 首里城公園のライトアップ
- 中城御殿跡地整備の概要（敷地 A=11,330 m²）（延べ床面積 A=3,870 m²）
令和8年首里城正殿復元工事完成までに完成予定
- ◎伝統技術の活用と継承
 - 首里城未来基金を活用した人材育成の取組
 - 首里城歴史文化継承基金事業（令和5年新規）
- ◎復興基本計画の着実な推進
 - 学術ネットワークの連携・県民党の継続的な参加・情報発信
 - 首里城火災破損瓦等の活用事業の実施
 - 首里城デザインナンバープレートの導入
 - シンポジウムの開催・イベントの開催
 - 首里城復興に関する情報の発信（Webサイト・公式X）

***まとめ**

あの令和元年10月31日の大火災以降、大規模な仮設建物で覆われて急ピッチで首里城正殿等の復元に向けて、令和8年の完成を目指して取り組まれていた。また、その復元工事の様子など安全性を考慮され、段階的一般公開を進められ、復元に向けたボランティア活動や公園イベント開催を通して、沖縄の地域振興への貢献に努められていた。また更なる首里城公園の魅力の向上に向けて、「新・首里杜構想」により中城御殿跡や松崎馬場、円覚寺跡や滝潭周辺等を計画的に整備されており、正殿の完成時点までに完成予定であり、公営・県営区域が一体となってこの広大な施設整備に取り組まれており、さらなる魅力向上と更なる観光振興向上に向けて着実な推進を図っておられた。

視 察 報 告 書

令和 7 年 2 月 3 日

鳥取市議会議長 星見 健蔵 様

鳥取市議会 会派新生

星見 健蔵



令和 7 年 1 月 22 日から令和 7 年 1 月 24 日まで鳥取市議会会派新生の視察（調査）に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

所見等：

令和 7 年 1 月 23 日（木） 沖縄県糸満市視察

○ 沙羅玉石けんくる糸満について

令和 7 年 1 月 23 日（木） 沖縄県那覇市首里城視察

○ 首里城復興基本計画について

令和7年1月23日（木）沖縄県糸満市視察

糸満市は、海をはじめ、グスクや戦跡など沖縄をイメージされる風景を集約された地域で長い歴史や文化を物語る名所、旧跡、伝統行事や芸能など有形・無形の文化資源のある街です、世帯数2万8764、人口6万2249人（令和6年10月31日現在）市政施行は、昭和46年12月1日で53年経過しています。

〈シャボン玉石けんくくる糸満について〉

糸満市観光センターでは、糸満市が持つ魅力を情報として発信しさまざまな体験や交流を図る場として、観光客の誘客や地域文化の発展を目的とする施設です。総事業費44億9974万円（内一括交付金33億9331万円、地方債10億8060万円、一般財源2583万円）となっています。建築、電気、機械、設計、監理、展示を共同企業体で賄い令和元年6月28日着工、令和4年4月15日完成と約3年間かけての観光文化交流拠点施設です。

ネーミングライツ料年間360万円（3年合計1080万円）で愛称を募集し、福岡県北九州市のシャボン玉石けん株式会社が取得し、シャボン玉石けんくくる糸満とされています。施設の指定管理をくくる糸満共同事業体（沖縄コングレ、コングレ、沖縄日本管財の3社JV）で行ない指定管理料2億7850万円（3年3か月）となっています。

管内施設には、大ホール、多目的室、活動室、会議室が整備されており年間16万人程度が利用されています。年間の利用者数の目標値8万7000人はクリアしていますが、施設の稼働率が3割以下にとどまっているため事業所の会議やMICE、修学旅行の誘致、文化芸術イベントなど集客に力を入れていきたいとのことでした。

尚、糸満市では、内陸部（農村地域）と沿岸部（工業団地ゾーン）に分けて開発を進めています。特に海に面した工業団地は全て埋立地で海拔0メートルの地帯にあり津波などへの対策も必要と思うが講じられていないとのことでした。

令和7年1月23日（木）沖縄県那覇市首里城視察

〈首里城復興基本計画について〉

令和元年10月31日未明に発生した火災により、9棟の建物が被災（全焼7棟、一部焼失2棟）これを受け、首里城復興を計画的に推進することを目的として、県民を始め多くの人々、企業、団体等及び行政、大学、関係機関等が、復興基本計画を共有することで、20年、50年先まで未来を見据え連携、協力して首里城に象徴される沖縄の歴史・文化の価値を確実に次世代へ継承しそれぞれの時代にふさわしい新たな文化創出など沖縄発展の礎として首里城復興に一体的かつ継続的に取り組むとし、首里城復興基本計画が立てられています。

首里城復元に向けた考え方として「3本の柱」が立てられています

- ① 段階的公開—首里城復元に向けて進む破損、瓦等の撤去や躯体の解体、復元工事の様子や安全性を確保しながら一般公開を進める
- ② 首里城復元—令和8年の首里城正殿の完成に向けて関係機関と密に連携を図りながら、首里城復元に向けた技術検討委員会での検討を進める
- ③ 地域振興、観光振興への貢献—首里城の段階的公開、首里城復元に向けたボランティア活動や公園イベントの開催を通して沖縄の地域振興、観光振興への貢献に努めていく

これらをもとに、令和元年の市場調査、令和2年の基本設計、令和3年の実施設計、調達、乾燥、令和4年から本体工事にかかり令和8年度の完成を目指しています。

年間の誘客数は300万人程度ですが、焼失してから8割程度に減少しているとのことです。また、年間のパスポートを大人一人800円で発行しているようですが、完成するまでは半額の400円にしているとのことです。

また、この度の首里城復元に向けて沖縄県に寄せられた寄付金額が（令和6年3月末）時点で59億748万程度寄せられており焼失した城郭内施設等の復元に活用させていただくとのことです。

一日も早い復興を願う次第です。